

第3回算数・数学ワーキンググループについて

2016年2月15日に中央教育審議会教育課程部会の算数・数学ワーキンググループが開催された。

17:00から19:00まで文部科学省3階2特別会議室で行われた。

一般傍聴者はこれまでのワーキンググループと同様で30名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 算数・数学教育のイメージ及び算数・数学において育成すべき資質・能力について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について
3. その他

まず事務局から資料について説明があった。

これまでの議論を踏まえて修正された資料「算数・数学教育のイメージ（案）」「育成すべき資質・能力の整理（案）」が示された。前回の議論の中でアクティブ・ラーニングの視点から協働的問題解決を表面に出すべきとの意見から、思考力・判断力・表現力等の欄に「協働的に問題解決する力」という項目が追加された。

これに対し、委員からは「協働的な問題解決」が「思考力・判断力・表現力」の欄にあることに違和感を感じるとの意見が出された。

「学びに向かう力、人間性」や「学習過程」の部分に示す方がよいのではないかという意見が相次いだ。また、そこが協調されたことによってすべてを協働的に解決しなければならないような印象になってしまうという危惧を感じる委員もいた。そのため、自立的な問題解決と協働的な問題解決の両方を示していくという方向で修正することになった。

その他、細かな表現方法の修正や用語の統一（「数理的」と「数学的」、「多面的」など）についてコメントがあり、より見やすくわかりやすくすることが求められた。

また、数理探究の欄について対象が自然科学と記され理科的側面からしか書かれていないので、数学的側面からは社会事象なども扱うようにするべきだとの意見があった。

18:10頃より議題2についての議論となった。

資料として「算数・数学の学習プロセス（案）」が示された。

育成すべき資質・能力をそのプロセスの中に再整理したことで、委員からは概ねよい評価であった。

こちらの資料においても「課題」・「問題」・「問い」や「日常生活」・「実社会」など類似した用語が用いられており、分かりやすくするにはそれぞれの違いを明確にするか用語を統

一すべきとの意見が出された。

また、議題1での資料と整合性がきちんとしていなければならないとの指摘があった。

次回は3月11日（金）17時より開催の予定である。